

西諸県地域の普及活動

令和6年8月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

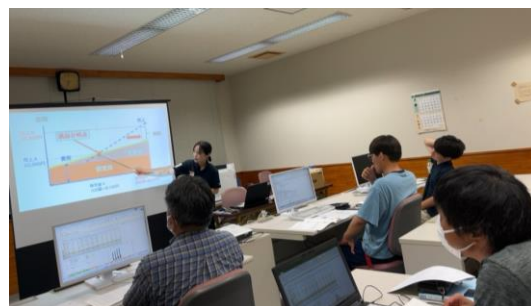
1) 第1回経営研修を開催

8日、普及センターが作成した経営分析シートを用いた経営研修を行いました。

この経営研修では、過去の決算書を元に様々な経営分析を行った、経営収支表を作成する演習をします。また、2年間の研修カリキュラムを通して、経営について自ら考えることで経営改善の意識を持っていただくことを目的としています。

対象者は昨年度と同様、青色申告を行う生産者3名で、第1回目の研修では昨年度に実施した演習のおさらいと目標に必要な売り上げや面積のシミュレーションを行いました。

第2回目の研修は9月に予定しており、生産者自身が立てた経営目標の達成に向けた5カ年の経営収支表を作成する演習を実施予定です。



【普及センターが経営分析の手法を解説し、演習に取り組む生産者たち】

2) 8月期子牛郡品評会が開催

16日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年8月期子牛郡品評会が開催されました。

8月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た26頭の出品があり、審査の結果、優等賞に5頭、壺等賞に13頭、式等賞に8頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市のI氏出品の「さわ149」号（宗守富士－耕富士－美徳国）、2席は小林市のY氏出品の「ももこ3の1」号（二刀流－福晴茂－耕富士）、3席は小林市のM氏出品の「たま」号（宗守富士－耕富士－秀菊安）が受賞されました。

受賞牛は、発育良好で体積豊か、雌牛らしい品位に富んでいる点が評価されていました。



【優等賞首席 さわ149号】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

3) 普通期水稲生育調査を実施

5、6日、関係機関からなる普通作物部会において、管内の普通期水稲の生育調査を実施しました。今回は、幼穂形成期の草丈・茎数・葉色・幼穂長・病虫害の発生状況の5項目について調査しました。

生育は概ね順調ですが、草丈平年並、茎数はやや少となりました。今年は7月の気温が平年より高く、日照時間も長かったため、全体的に生育ステージが早く推移し、出穂期は平年より4日早い8月18日となりました。

病虫害の発生状況としては、いもち病や紋枯病、ウンカ類は平年並～やや少ない傾向ではありますが、無防除のほ場では今後被害が増加する恐れがありますので、基幹防除の徹底が必要です。

次回は9月中旬に成熟期調査、11月上旬に収量調査を予定しており、今年度産の状況や来年度に向けた検討を進めていく予定です。



【生育調査の様子】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

14日、21日、小林市において、きゅうりで就農を開始した方及び肉用牛繁殖経営を承継する予定の後継者の方の就農相談に対応しました。

14日高原町において、肉用牛繁殖経営を承継する予定の後継者の方の就農相談に対応しました。

関係機関と連携し、認定新規就農者の認定に向けた支援や就農時の各種支援策の活用について支援を進めていく予定です。

※就農相談対応 3名3回 (内訳 小林市：施設野菜1名、畜産1名、高原町：畜産1名)

2) 新規就農者育成総合対策経営開始資金(旧：農業次世代人材投資資金)活用者の就農状況等の確認

5日に、えびの市で、16日に、小林市で経営開始資金等を受給する新規就農者に対して、就農状況の確認を行う面談を行いました。

面談では、認定計画に対しての前年度までの生産量や売上高の進捗の確認や就農を行ったなかで、出てきた課題について個別に確認が行われました。

進捗が思わしくなかった就農者に対しては、関係機関と連携し、就農定着に向けたフォローアップ支援を進めていく予定です。

(内訳 えびの市：露地野菜1名、水稲1名、いちご4名、小林市：畜産1名)



【いちご団地での現地確認】

3) 農業者セミナーの開催

①アグリ★ベーシックセミナー第4回及び第5回を開催

6日に第4回、23日に第5回のセミナーを開催しました。セミナーは、いずれの回も県が主催するリカレント研修を普及センターにおいて、オンラインで接続する形で行いました。内容は、第4回が「植物生理」について、第5回が「経営管理の基礎」について、それぞれ8名、5名の新規就農者等が参加されました。

新規就農者にとって難易度が高いものが含まれていましたので、アンケート結果をもとに講座ごとの受講対象者の明確化と、セミナーの案内方法についても次年度以降に、改善を検討していく予定です。

4) にしもろサップ地域関係機関表敬訪問

20日、にしもろサップ役員による地域関係機関への表敬訪問が行われました。表敬先となるNOSAI宮崎西諸センター、農林振興局、普及センターでそれぞれ意見交換が行われ、代表者の方からサップ活動へのご理解をいただくとともに、活動を通じた学修活動や農家同士のつながりを持つことの意義など、期待と激励の言葉を多くいただきました。



【NOSAIセンター長らと歓談する役員達】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) えびの市で飼料用米現地栽培講習会を開催

2日、えびの市管内のほ場で、低コスト栽培や安定多収生産を目的とした飼料用米現地栽培講習会を開催し、当管内の生産者11名が参加しました。

普及センターからは、作業分散・低コスト栽培を目的とした新しい種子処理用殺虫剤「ルミスパンス」の試験概要や安定多収生産に向けた穂肥施用、病虫害防除等の栽培管理について説明しました。

生産者からは、「ルミスパンス」について箱施薬剤の施用が必要ない点や処理が簡単・種子処理後が他の種子と判別しやすい点が好評でした。栽培管理において、現時点で病虫害発生状況や散布時期について積極的な質問が多く寄せられました。

今後も定期的に巡回を行い、安定した多収生産ができるよう、支援を続けていきます。



【現地講習会の様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 西諸県地区サツマイモ生産技術向上研修会の実施

8日に普及センターで、西諸県地区サツマイモ生産技術向上研修会を開催し、生産者や関係機関から32名が参加しました。

現在、西諸県地区は県内でもサツマイモ基腐病の発生が少ない優良産地であり、今後も産地を維持することを目的として研修会を開催し、サツマイモ基腐病も含めた総合的な病害虫対策で重要となる、今作の収穫時から次作の作付けまでの栽培管理のポイントなどについて研修を行いました。

今後は、更なる産地の発展に向けて、優良種苗体制の構築や新たな栽培技術の検討を行って参ります。



【生産技術向上に向けた研修】

2) かんしょ現地検討会の実施

20日に、サツマイモ現地検討会を開催し、関係機関(市町・JA・県等)担当者8名が参加しました。

管内全域におけるかんしょの生育状況等の把握や情報共有に加え、サツマイモ基腐病の発生状況調査も実施しました。

サツマイモの生育は概ね良好であることや、サツマイモ基腐病の発生がないことを確認しました。

今後も引き続き、サツマイモ基腐病の発生状況調査を関係機関と連携して実施する計画です。



【サツマイモ基腐病発生状況調査】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご部会定期総会

20日、JAえびの市本所においていちご部会定期総会が開催され、議案第1号から第6号全てが承認されました。

昨シーズンは県内全域で炭疽病が発生し、えびの市においても苗の不足がみられました。今作ではその対策の一環として、育苗培土の展示ほを設置し調査を行っています。高温が続いたことによる生育不良も少しみられましたが、現状としては概ね順調に苗が生育している状況です。まだ定植まで1ヶ月程度時間がありますので、病気を出さないような栽培管理の指導を行っていきます。



【個人・団体表彰式】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会の活動を支援

① JAはまゆうマンゴー部会の視察対応

7日、小林市内でJAはまゆうマンゴー部会の視察対応を行い、2園地を巡回しました。1園地目は地域に先駆けて炭酸ガス施用を導入した園地で、今年度の調査結果を共有しました。2園地目は部会長の園地で、JAこばやしマンゴー部会の活動（県内での団体1例目となったみどり認定の取得や、産地ビジョンの見直し、研修生受入れに向けた動き）について普及センターより説明しました。

今後も地域を越えて県内マンゴー産地と連携し、マンゴー栽培の課題に取り組んでいきます。



【炭酸ガス施用を学ぶ生産者】

② 役員会

27日、JAこばやし三ヶ野山出張所にてJAこばやしマンゴー部会の役員会が開催され、役員9名と関係機関4名が参加しました。今回は、研修生受入れ体制の整備、産地ビジョン見直しに向けた検討を行いました。研修生受入れ体制の整備については、令和6年度中の認定研修機関の承認、産地ビジョン見直しについては9月の総会での更新を目標としました。また、みどり認定は7月31日付けで県内での団体1例目となったことを報告しました。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【研修生受入れを協議する関係者】

2) 梨(幸水) ジョイント仕立て・流線型仕立て栽培の果実調査

8日、普及センターにて梨(幸水)のジョイント仕立て・流線型仕立ての果実調査を行いました。

7～8月の降水量が少なく、果実が小玉傾向であるため、反収がやや減少しましたが、糖度や果形等については良好でした。特に、ジョイント仕立ては樹体内の養分が均一に分配されるため、果実品質が揃った印象でした。今後は9月上旬にあきづきの果実調査を行い、7年間の反収等の推移をまとめる予定です。



【梨ジョイント・流線型仕立て果実調査】

3) ぶどう（ピオーネ）アブシシン酸液剤散布後の果実調査

26日、普及センターにてぶどう（ピオーネ）のアブシシン酸液剤（着色促進剤）散布後の果実調査を行いました。着色について、100倍区が一番良好で、200倍区と無処理区は差がありませんでした。今回の調査で、100倍の散布で十分な効果があるが、200倍では不十分であることが分かったので、来年度は150倍での検討、散布量等の検討を行う予定です。



【ぶどうアブシシン酸液剤果実調査】

（西諸島地域の特色を活かした花き産地振興）

1) ラナンキュラス栽培講習会の開催

20日に、JA小林集送センターにおいて、生産者5名、関係機関5名が参加し、ラナンキュラス栽培講習会を開催しました。普及センターからは、今後の管理として、土づくりや球根冷蔵、定植前後までの留意事項について説明を行いました。特に、球根を冷蔵する際の培土の水分量について、含む水分量が異なる土壌をもとに説明しました。

ラナンキュラス栽培は、これからは場準備と球根冷蔵に入っていきます。安定した収量と品質を目指して、今後支援していきます。



【ラナンキュラス栽培講習会】

2) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会の開催

22日に、高原町の実産者4名及び関係機関4名が参加し、9月彼岸出荷型を中心に3戸のハウスについて巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。8月お盆出荷作型では、高温の影響で開花が遅延し、お盆過ぎてからの出荷もみられましたが、単価は概ね安定していました。しかし、一部のほ場で年末出荷準備のため、収穫前にすき込みを行うことになりました。

定例会では、JAから8月お盆出荷の状況について説明されました。普及センターからは、チョウ目虫及びBT剤について説明を行い、日々の管理を行いながらも体調を整えて作業するよう伝えました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。



【情勢報告に聞き入る生産者】

3) JA えびの市キイチゴ「ベビーハンズ」防除講習会を開催

23日に、JA えびの市キイチゴ生産者7名、関係機関2名が参加し、キイチゴの防除講習会を開催しました。

降雨が少ないことから秋芽の発芽不良や生育停滞のほ場があり、かん水の呼びかけと降雨後の葉面散布について説明しました。また、病害虫の発生が増えているため、ICMの考え方や薬剤の散布方法と薬剤の調整法などを説明しました。

関係機関と連携し、秋口からの出荷に向けた継続的な支援を行っていきます。



【薬剤の調整法などの説明を聞く生産者】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 西諸県地区茶業振興協議会反省会の開催

23日、小林市内において、西諸県茶業振興協議会反省会が行われ、茶生産者13名および関係者（JA こばやし地区本部、市町、宮崎経済連、農林振興局、普及センター）が出席しました。

会では、普及センターから茶の病害虫発生状況や対策、他関係機関からは茶の情勢や市況等に関する報告が行われました。

今後も、関係機関では生産技術や生産性向上に向けた支援を行って参ります。



【西諸県地区茶業振興協議会反省会】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) JA えびの市ピーマン部会定期総会の支援

1日、JA えびの市にてピーマン部会定期総会が開催されました。総会では、議案第1号から第8号までが承認され、令和6年度が無事にスタートしました。

今作の夏秋ピーマンは長雨や高温が続き、赤果の発生や花落ちなどの生理障害が確認されています。栽培が難しい年は今後も続いていくと考えられますので、引き続き関係機関と連携しながら生産者の栽培指導を行っていきます。



【総会での表彰】

2) 小林市苺生産部会の定期総会の支援

6日、小林市内で小林市苺生産部会定期総会が開催され、普及センターからは祝辞と育苗期の注意点の説明をしました。総会後は意見交換会も行われ、生産者や関係機関と昨シーズンの反省や今作の栽培状況の共有を行いました。

部会員数は8名と小規模ですが、個々の栽培技術力が高く他産地からも注目されている部会です。技術力をさらに向上させ、より高品質で高単価のいちごを栽培できるよう、引き続き普及センターとしても技術的な支援を行っていきます。

3) 第10回JAこばやしメロン部会定期総会

22日、JAこばやしメロン部会定期総会がゆーぱるのじりで開催されました。普及センターからは、新たに作成した防除暦と今作の栽培管理のポイントを説明しました。

昨年度はコナジラミの発生により、慣行の管理では防除が難しいほ場が一部確認されました。それを踏まえて、今作からは天敵を活用した防除体系を導入し、試験を行う予定です。引き続き、現場の状況を見ながら防除暦の見直しや栽培管理の指導を行っていきます。



【総会での表彰】

4) 西諸県地区花き技術員会第3回定例会の開催

19日に、普及センターにて第3回定例会を開催し、関係機関12名が参加しました。室内検討では、害虫の発生とBT剤についての勉強会や、展示ほ結果、視察研修の共有、共進会等の検討などを行いました。

視察研修により、他県の花きの栽培を实际見たことで、関係機関の花き品目のイメージが進んだと思われます。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【情報共有や協議を行う技術員達】

5) 小林市鉢物生産組合への支援

2日、6日、20日に、小林市鉢物生産組合に対する支援を行いました。暖地では生産しにくい品目だけでも耐暑性のある品種について栽培を行っていますが、そもそも鉢上げ後から生育が不良であったため、用土の検討を行いました。

生育に適するpHが低い品目であったため、鹿沼土など低pHを混ぜた用土を使用することで、生育が改善しました。

今後も生産者と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【生産者への土壌改善支援】